

「小児歯科領域における歯周疾患」へのアプローチ

歯学博士

瀬 尾 令 士



■ 略歴

広島県出身

昭和54年3月 福岡歯科大学歯学部卒業

昭和54年4月 福岡歯科大学助手（小児歯科学講座）

昭和60年7月 医療法人皓奏会瀬尾歯科クリニック開院。

現在に至る。

現 在：福岡歯科大学非常勤講師（小児歯科講座）

九州歯科大学非常勤講師（小児歯科講座）

日本小児歯科学会九州地方幹事

日本小児歯科学認定医

熊本県歯科医師会学術委員

熊本小児歯科研究会B. P. C代表

熊本小児歯科懇話会会員

近年、高齢者社会を迎えるに至って、歯周疾患撲滅をめざした真摯なる取り組みが遂行されている。小児歯科領域における歯周疾患の現状は、成長期での解剖学的かつ生理学的特質から、圧倒的に歯肉炎の罹患率が高く、全身疾患や遺伝性疾患の関与が認められる場合を除いては、骨の吸収を伴った重篤な歯周炎は比較的に希な疾患とされていた。このことが齲歯、歯列不正、外傷などに比べて、歯周疾患にあまり関心が向けられなかつた故である。しかし、「成人の歯周疾患の根源は小児期にある」という提言の如く、成人の歯周疾患を少なくするには、成長発育期での小児の歯周疾患の病態を知り、早めの予防対策をたて健全な口腔環境を導き、維持することが重要である。今回、若干の症例を供覧しながら小児期から思春期に至る小児歯科領域での歯周疾患（歯槽膿瘍、歯肉炎、歯周炎）について報告し、診断および処置法などの諸問題について検討を加え、私見を述べてみたいと思います。